

## 博報財団 第9回「国際日本研究フェローシップ」成果報告書

## I. 研究概要

氏名(在住国名)	サテー アシュウィニー ムクンド (インド)
所属	プネ印日協会 (日本語学校)
招聘回(招聘研究期間)	第9回 (2015年3月1日～2015年8月31日)
受入機関	早稲田大学
招聘研究テーマ	プネ印日協会におけるインド人向けのビジネス逐次通訳養成コースのリソース開発の基礎研究
研究目的	<p><b>背景・問題意識</b>：最近、インドで日本の支援でデリー・ムンバイ間大動脈構想 (DMIC : Delhi-Mumbai Industrial Corridor, Smart Community Project) が進んでいる。日本の大手企業 (三菱、東芝、三井、日立) がこのプロジェクトの中の19プロジェクトの支援を申し出ている。それに従って、インドでは日系企業の数が増加すると予測されている。また、日本のモノづくりの技術を取り入れるインド企業も増加している。そこで、インド人の通訳者、翻訳者が必要となる。</p> <p>所属機関のプネ印日協会 (Indo Japanese Association, Pune、以下 IJA) では2010年からインド人向けのビジネス逐次通訳養成コース (以下、通訳コース) を行っている。これまで、IJA 通訳コースを5回行い、修了者が23名である。通訳コースのシラバスは筆者が修士論文として開発したシラバスである。</p> <p><b>問題意識</b>：DMIC プロジェクトを背景にした日系企業につれ、様々なビジネス分野における通訳者及びインド人向けの通訳コースも必要となる。また、筆者が IJA の通訳コースを実施したが、教材の一貫性に課題があったため、IJA の通訳コースの全体的な評価を行い、新たな教材作成をするために、以下の研究課題を設定し、通訳コースの教材 (リソース) 開発のための基礎研究を行うことにした。</p> <p>課題 (1) IJA 通訳コースを修了した学生はコース全体をどのように評価しているか。</p> <p>課題 (2) 他機関の通訳コースのカリキュラム、(主にシラバス、教材、評価基準、修了テストの実態調査。</p> <p><b>研究目的</b>：</p> <p>上の (1) から (3) を行うことで、以下の①～③を目指す。</p> <p>① IJA 通訳コースのシラバス・カリキュラムを見直すこと。</p> <p>② IJA 通訳コースの評価基準と評価方法に沿い、終了テストを作成すること。</p> <p>③ IJA 通訳コースの教材の枠組みを考察し、一つのモジュールの試作版作成すること</p>
研究概要：	
研究方法：	<p>課題 (1) の回答を得るためにコース修了者のアンケート調査を行う。</p> <p>課題 (2) の回答を得るためにアンケート調査、先行研究調査、文献調査とウェブサイト検索を行う。</p>

### データ分析・考察:

課題①の通訳コース修了生のアンケート調査のデータ分析を完了し、Kirkpatrick (1996) のトレーニングの4レベル(反応、学習、行動、業績)の評価モデルによる通訳コースの評価を行い、評価はおおむね好評で、学習者の視点から①通訳コースの期間②教材の種類③日本語に関する仕事の種類、④通訳コース教材の内容について改善点が得られた。本研究の課題(2)として第1はインドの翻訳・通訳業に従事する会社で行われている社内訓練の内容をアンケート調査で調べた。その結果、社内で使用されている教材の種類がわかった。具体的な内容は分からなかったが、既存の教材があったら使用するという回答があったので、彼らが使用している教材に足りない点があると考えられる。さらに、従業員の弱点(英語文法能力・日本語文法能力が足りない、マナー、ビジネス文化、文章の書き方がわからない)から筆者のIJA通訳コースの教材の内容への示唆が得られた。第2は日本の通訳・翻訳専門学校を訪問し、ウェブサイト検索も行った。さらに、それぞれ日本以外の国(オーストラリア、アメリカ、インド)の大学のウェブサイトの検索を行い、通訳・翻訳の学士課程・修士課程と短期間のDiploma Courseについてそのコースの期間、授業内容についての情報を収集した。その結果、IJA通訳コースの現在のシラバスを見直すべき点についての示唆と通訳コースの評価テスト作成についての示唆が得られた。同様に、IJA通訳コースの修了テストの形式について有益な情報が得られた。

**展望:** 課題(1)(2)の調査結果を踏まえ、今後、まず、IJA通訳コースのシラバス・カリキュラムを見直し、次に、IJA通訳コースの評価基準と方法に沿って修了テストを作成する。それからIJA通訳コースの教材の枠組みを考察し、試作版を目指す。その際、以下のスケジュールに沿って研究を進めていく。

項目	内容	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月
1	本研究の通訳コースのカリキュラムを分類する。 (入門コース(2か月)と上級コース(4か月))							
2	入門コースと上級コースのシラバスを作成する。							
3	入門コースの教材試作版を作成 評価基準を決定し、事前テスト、事後テスト、を作成する。							
4	入門コースを実施すること。同時に改善点を得る。							